

第52回（令和6年度）JA共済 全国小・中学生

書 道

沖縄県コンクール募集要項

書道コンクールキャラクター

「キョショー」



© 2006 JA-KYOSAI



共催：沖縄県農業協同組合

全国共済農業協同組合連合会沖縄県本部

後援：沖縄県農業協同組合中央会

沖縄県

沖縄県教育委員会

琉球新報社・沖縄タイムス社・琉球放送

沖縄テレビ放送・NHK沖縄放送局・琉球朝日放送

エフエム沖縄・ラジオ沖縄 <順不同>

6. 審査委員（県コンクール）

沖展審査員 田名 洋子
日展会友 幸喜 洋人
読売書法会理事 金城 翔山

7. 各賞（県コンクール）

（1）県知事賞

条幅・半紙別に各1点

（2）JAおきなわ特別奨励賞

全学年から半紙で1点

（3）JA共済連特別奨励賞

全学年から条幅で1点

（4）優秀賞

学年別、条幅・半紙別に各1点

（5）優良賞

学年別、条幅・半紙別に各2点

（6）佳作

学年別、条幅・半紙別に各3点

（注）県知事賞、JAおきなわ特別奨励賞、JA共済連特別奨励賞は優秀賞の中から選定し、重複表彰は行いません。

<参加賞>

県コンクール参加者全員に記念品を贈呈します。

8. 入賞発表

- （1）地区コンクールの入賞発表は、各支店において適宜行うこととします。
- （2）県コンクールの入賞発表は、JAおきなわの各支店を通じ入賞者へ通知します。
- （3）全国・県コンクールの上位入賞者については、氏名、学校名等について機関誌「JA共済」誌、「日本農業新聞」紙上、および適当と判断した新聞・雑誌等において発表することがありますのであらかじめご了承ください。

9. 著作権の扱いについて

入賞者の作品の著作権はJAおきなわ、沖縄県本部ならびに全国本部に帰属するものとし、補作することがあります。

10. 個人情報について

応募者氏名、学校名等については、応募者名簿を作成する等のコンクール業務に必要な範囲でのみ利用いたします。また、上位入賞者については、上記8のとおりいたしますのでご了承ください。

II 課題等

1. 課題

区分		条幅の部			半紙の部					
小学生	第1学年	つ	ば	さ	う		た			
	第2学年	は	な	び	く	る	み			
	第3学年	秋	ま	つ	り	あ	さが	お		
	第4学年	美	し	い	湖	笑		顔		
	第5学年	友	情	の	証	信	じ	る	道	
中学生	第1学年	芽	吹	く	季	節	到	達	目	標
	第2学年	言	葉	の	源	泉	国	際	親	善
	第3学年	高	鳴	る	鼓	動	風	光	明	媚

2. 作品応募規格

(1) 応募作品

ア. 用紙

(ア). 条幅の部

画仙紙半切 (タテ約 136cm×ヨコ約 35cm)

(イ). 半紙の部

半紙 (タテ約 33cm×ヨコ約 24cm)

※規格外の応募作品は審査対象外となります。(上記サイズより長短3cm程度までは可とします。)

※表装・裏打ち・押印等はしないでください。

イ. 書体

小学生は楷書、中学生は楷書または行書とします。

ウ. 字体

小学校の学習指導要領(別表1)の学年別漢字配当表に示す字体に準ずるものとします。

(2) 学年・氏名の記入方法

作品への学年・氏名の記入は次のとおりとします。(図例1・2)

(学 年) (氏 名)

○ 年 ○○○○○

ア. 小学校第1学年および第2学年

学年・氏名とも「漢数字」「漢字」「ひらがな(カタカナも可)」いずれでもかまいません。ただし、アラビア数字は使用しないでください。

イ. 小学校第3学年以上

学年は「漢数字」・氏名は原則「漢字」とします。

なお、次の(ア)～(エ)に該当する作品は審査の対象になりません。

(ア). 学年、氏名のないもの(図例3)

(イ). 小・中学校の別を記入したもの(図例4)

(ウ). 学校名を記入したもの(図例5)

(エ). 学年・氏名の順を誤って記入したもの(図例6)

正しい書き方		誤った書き方				
図例1	図例2	図例3	図例4		図例5	図例6
名札	名札	名札	名札	名札	名札	名札
		学年・氏名のないもの	小・中学校の別を記入したもの		学校名を記入したもの	学年・氏名の順を誤って記入したもの

(注) (1) 上記の(2)学年・氏名の記入方法のイにおいて、小学校第3学年以上の児童は学年・氏名を漢字で書くようにと示しておりますが、平成14年度からの小学校学習指導要領では、漢字の「書く」指導について、1学年上の学年で書けるようにするという弾力的な指導が示されたことから、氏名の漢字使用については中学年(3・4年)以上の原則は守りつつも、難しい漢字につきましては弾力的な対応をいたします。

従って、小学校第3学年以上で氏名がひらがなだからとの理由のみで選外とすることは避けてください。

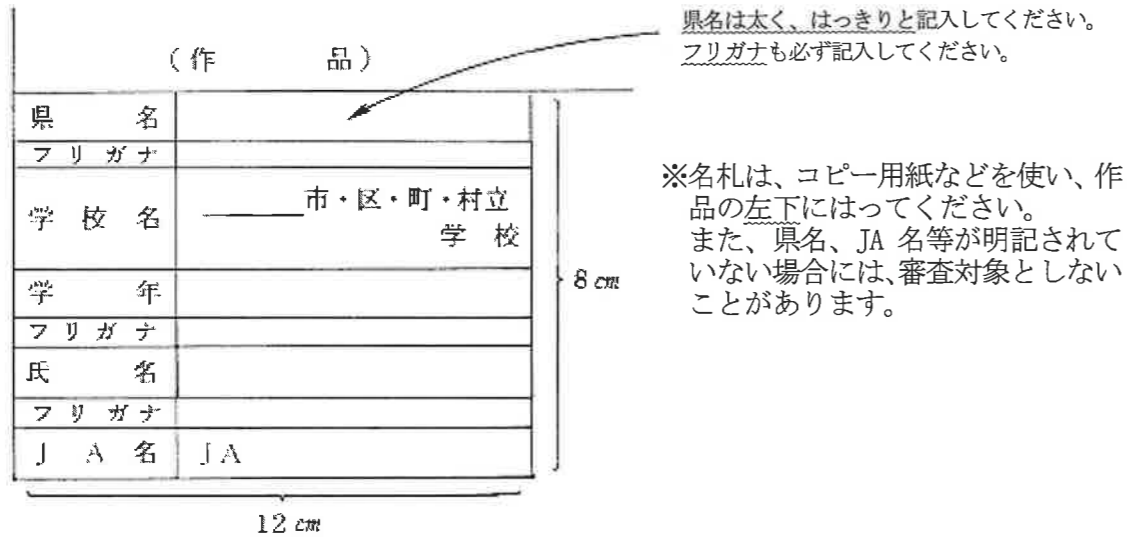
(注) (2) 半紙3文字の課題の場合の文字配列は上記「正しい書き方」図例2に示してあるとおりとし、その場合の名前の位置は図例1および2のいずれでも可とします。

(注) (3) 義務教育学校等の学年表記については学校の考え方に準じ、「七年、八年、九年」の記載を可能とします。

(3) 名札のはりつけ・記入方法

次の例に示すように、タテ 8cm×ヨコ 12cm 程度の別紙（コピー用紙など）に、県名、学校名、学年、氏名、所属 JA 名（支店名）を明記し、応募作品ごとに左下に必ずはりつけてください。

<例>



(4) 郵送等の注意

応募作品の提出、郵送等につきまして、作品を破損しないよう特に注意してください。もし作品が破損し、審査にたえない場合には審査の対象といたしません。

別表 1

小学校学習指導要領

学年別漢字配当表

第一学年	<p>一右雨円王音下火花貝学気九休玉金空月犬見 五口校左三山子四糸字耳七車手十出女小上森 人水正生青夕石赤千川先早草足村大男竹中虫 町天田土二日入年白八百文木本名目立力林六 (80字)</p>
第二学年	<p>引羽雲園遠何科夏家歌画回会海絵外角楽活間 丸岩顔汽記帰弓牛魚京強教近兄形計元言原戸 古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今才細 作算止市矢姉思紙寺自時室社弱首秋週春書少 場色食心新親図数西声星晴切雪船線前組走多 太体台地池知茶昼長鳥朝直通弟店点電刀冬当 東答頭同道読内南肉馬売買麦半番父風分聞米 歩母方北毎妹万明鳴毛門夜野友用曜来里理話 (160字)</p>

第三学年

惡安暗医委意育員院飲運泳馭央橫屋温化荷界
開階寒感漢館岸起期客究急級宮球去橋業曲局
銀区苦具君係輕血決研鼎庫湖向幸港号根祭皿
仕死使始指齒詩次事持式実写者主守取酒受州
拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神
真深進世整昔全相送想息速族他打对待代第題
炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄軫都度投豆鳥
湯登等動童農波配倍箱畑発反坂板皮悲美鼻筆
水表秒病品負部服福物平返勉放味命面問役業
由油有遊予羊洋葉陽樣落流旅両緑礼列練路和
(200字)

第四学年

愛案以衣位茨印英榮媛塩岡億加果貨課芽賀改
械害街各覺瀉完官管関観願岐希季旗器機議求
泣給拳漁共協鏡競極熊訓軍郡群徑景芸欠結建
健驗固功好香候康佐差菜最埼材崎昨札刷察參
産散残氏司試児治滋辞鹿失借種周祝順初松笑
唱燒照城繩臣信井成省清静席積折節說淺戰選
然争倉巢束側統卒孫帶隊達単置仲沖兆低底的
典伝徒努灯働特徳枋奈梨熱念敗梅博阪飯飛必
票標不夫付府阜富副兵別辺変便包法望牧末満
未民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例連老
勞録
(202字)

第五学年

庄囿移因永營衛易益液演応往桜可仮価河過快
解格確額刊幹慣眼紀基寄規喜技義逆久旧救居
許境均禁句型経潔件険検限現減故個護効厚耕
航鉦構興講告混查再災妻採際在財罪殺雜酸賛
士支史志枝師資飼示似識質舎謝授修述術準序
招証象賞条状常情織職制性政勢精製税責績接
設絶祖素総造像増則測属率損貸態団断築貯張
停提程適統堂銅導得毒独任燃能破犯判版比肥
非費備評貧布婦武復復仏粉編弁保墓報豊防貿
暴脈務夢迷綿輸余容略留領歴
(193字)

第六学年

胃異遺域宇映延沿恩我灰拈革閣割株干卷看簡
危机揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇激穴券絹権
憲源巖己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁
策冊蚕至私姿視詞誌磁射捨尺若樹収宗就衆從
縦縮熟純処署諸除承将傷障蒸針仁垂推寸盛聖
誠舌宣専泉洗染銭善奏窓創装層操蔵臓存尊退
宅担探誕段暖値宙忠著庁頂腸潮賃痛敵展討党
糖届難乳認納脳派拝背肺俳班晚否批秘俵腹奮
並陞閉片補暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訊郵優預
幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論
(191字)

字体についての解説

明朝体と筆写の楷書との関係について

常用漢字表では、個々の漢字の字体（文字の骨組み）を、明朝体のうちの一種を例に用いて示した。このことは、これによって筆写の楷書における書き方の習慣を改めようとするものではない。字体としては同じであっても、明朝体の字形と筆写の楷書の字形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである。以下に、分類して、それぞれの例を示す。いずれも「明朝体—手書き（筆写の楷書）」という形で、左側に明朝体、右側にそれを手書きした例を示す。

1 明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの

(1) 折り方に関する例

衣—衣 去—去 玄—玄

(2) 点画の組合せ方に関する例

人—人 家—家 北—北

(3) 「筆押さえ」等に関する例

芝—芝 史—史

入—入 八—八

(4) 曲直に関する例

子—子 手—手 了—了

(5) その他

之—之 心—心

2 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの

(1) 長短に関する例

雨—雨雨 戸—戸戸戸

無—無無

(2) 方向に関する例

風—風風 比—比比

仰—仰仰

糸—糸糸 ネ—ネネ ネ—ネネ

主—主主 言—言言言

年—年年年

(3) つけるか、はなすかに関する例

又—又又 文—文文

月—月月

条—条条 保—保保

(4) はらうか、とめるかに関する例

奥—奥奥 公—公公

角—角角 骨—骨骨

